

# 轍わだち

2023. 3. 10 NO. 153

## あの日から <sup>つな</sup>繋がりが続いて 12年

あの日から活動を始めて12年。今井千和世 校長先生に振り返ってコメント頂きました。

生徒による被災地への応援活動の記憶は、1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災時に、高校3年生数人が避難所の三宮にある体育館に向いて、たこ焼きを作って提供したこと、募金を集めたことです。しかし、それは一時の事で終わってしまいました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、息の長い被災地応援活動を決意して生徒が実行委員会を立ち上げました。災害時には誰もが「何かしたい」と思い支援します。しかし、時の流れと共に人々は被災地を忘れ、支援活動に終止符が打たれていきます。被災者にとって最も悲しいことは、「忘れられること」だと言われました。実行委員会が12年の歳月、活動を継続できたのは、「私たちは被災地を忘れない！」というモットーを大切にしてきたからです。

### 「<sup>あかし</sup>忘れない証が、11円募金と轍の発行

毎月11日に、実行委員会が校門前で「11円募金」のお願いをしています。11円は、大震災が発生した3月11日にちなんだものです。もちろん、募金額はいくらでも構わないのです。募金は毎年の被災地へのクリスマスプレゼントにしています。



### たより 轍の発行も「<sup>あかし</sup>被災地を忘れない」の証

被災地の復興状況や課題についての情報に触れる機会が随分と減ってしまっています。そうすれば、おのずと忘れてしまいがちです。しかし、12年がたった現在も、放射能汚染区域は残っていますし、故郷に戻れず家屋の再建もままならない状況下に置かれている人がいます。大切な人を失った悲しみに耐えながら懸命に生きている人が大勢います。そんな状態を皆さんに知ってもらいたい。そんな思いであの日から、欠かすことなく発行しています。

# 東日本の被災地を応援し続けた高校3年生より

中学1年生から活動が続けてきた宮本美結さんからメッセージをもらいました。

6年間、東日本被災地応援実行委員会に所属し、自分の中で震災を常に意識することが出来ました。毎月の募金活動やその他被災地支援に関わることで、震災の危険性、その恐ろしさを身にしみて感じ、いつ何時震災が起こっても行動出来るように心がけていました。震災は天気予報のように予測できるものではありません。だからこそ常にどのような状況でも命を繋げられるように意識しておくことが大切だということ学びました。

2011年に私たちの先輩方が東日本被災地応援実行委員会を発足し、今年で13年目になります。先輩方が生徒主体で委員を発足したことは平安女学院の精神の賜物です。皆さんはその先輩方の想いをこれからも受け継ぎ、活動に力を貸してくれればと思います。毎月の募金もこの轍も、何年後も絶えずに続くことを願っています。6年間ありがとうございました。



## トルコ・シリア大地震から1ヶ月。被災地は今。

およそ5万2000人が死亡した、トルコ南部で発生した大地震から6日で1か月となります。

トルコでは大きな被害を受けた建物が20万棟にのぼり、多くの人がテントでの避難生活を続けていて、住宅や暮らしの再建に向けた支援の継続が求められています。被害が広い範囲に及んでいることから、被災地では水や食料など生活に必要な支援が行き届いていないという声も上がっています。UNDP（国連開発計画）は、トルコだけで1億トンから2億トン余りのがれきが発生したと推定していて、大量のがれきの撤去も大きな課題になっています。またトルコ南部の被災地では家や仕事を失うなどして住み慣れた土地を離れる人が相次いでいます。

10年以上にわたり内戦が続くシリアでは大地震の発生から1か月となるなかでも、アサド政権と被災地の北西部を支配している反政府勢力の対立もあり、支援物資の輸送に影響が出るなど厳しい状況が続いています。OCHA（国連人道問題調整事務所）などによりますと、シリア全土で10万5000世帯以上が避難しているほか、およそ130万人が緊急の食料支援を受けたということです。このうち、被害が大きかった北西部はアサド政権と対立する反政府勢力の支配下にあり、人道支援のルートは増えましたが、依然として支援の拡大が課題となっています。 6日 NHK 報道より

2/13 緊急募金の額 27,466 円+ 保護者会からの募金合せて

**5万円** を赤十字に募金寄付をしました。

ご協力ありがとうございました。

